

真淵勝教授を送る

立命館大学政策科学部長 岸 道 雄

真淵勝先生が2020年度をもって定年退職される。先生は1980年に京都大学法学部を卒業され、1982年に京都大学大学院法学研究科修士課程修了後、大阪大学法学部助手になられた。その後、大阪市立大学法学部教授をつとめられ、1996年に京都大学にて法学の博士号を取得された後、1999年に京都大学大学院法学研究科に移られた。京都大学では大学院法学研究科教授、公共政策大学院院長等をつとめられ、2016年4月に立命館大学政策科学部にお迎えすることになった。

2016年度は、政策科学部が京都の衣笠キャンパスから大阪いばらきキャンパス（OIC）に移転して2年目の年であった。入学者層も一定程度変わり、OICでの政策科学部の新たな展開を行うにあたり、私たち政策科学部にとって、教育経験がご豊富で素晴らしい研究業績を積み重ねられておられた真淵先生を本学部にお迎えできたことは非常に幸運であった。

政策科学部においては、ご専門の行政学・公共政策分析に関する行政学Ⅰ・Ⅱ、公共政策総論等の講義科目に加えて、3回生、4回生のゼミである政策構想演習Ⅰ～Ⅲ、学士論文などをご担当いただいた。学部の講義では、ご著書の『行政学』を教科書として、国家行政と地方行政について、学生の公務員試験受験も念頭におかれて講義をされ、演習科目においては、学生に幅広い関心を持たせるために、リスク管理をテーマに授業を行うことによって、政策科学部における社会科学教育の質的向上に大きく貢献された。

大学院の政策科学研究科では、公共政策について、時間や専門知識という独自の観点から講義を行われ、多様な専門分野の院生の研究に刺激を与えられた。リサーチ・プロジェクトにおいても、図式などを多用することによってアカデミックな議論を明快に行うことの重要性を教授された。

研究においては、行政学の分野では日本を代表する行政学者であられ、ご著書の『行政学』は行政学を志す研究者にとっては必読の書と言っても過言ではないほど、多くの人々に読まれている。また、『風格の地方都市』をはじめ、多くの著書、論文を公表され、1994年には『大蔵省統制の政治経済学』により、サントリー学芸賞を受賞されている。本学の地域情報研究所の研究会にも毎回ご出席下さり、発表者に対して非常に的を射た質問をされるとともに暖かいコメントをされておられたことが深く印象に残っている。

立命館大学および政策科学部の運営にも大きなご貢献をいただいた。大学協議会協議員に加

えて、3年にわたって立命館大学の評議員をつとめられ、さらに学部の教授会および研究科委員会の議長として、スムーズな議事運営にご尽力いただいた。

先生には、政策科学部特任教授として、これまでとは別の視点から政策科学部・政策科学研究科をご指導いただくことになる。本学部教職員・学生を代表して、これまでのご業績をたたえ、また、ご苦勞をねぎらい、政策科学部・研究科の発展にご尽力いただいたことに、心から感謝の意を表したい。

2021年3月